

テーマ1：自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きるこどもの育成

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちのために、「問題解決能力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」を身に付けさせていくとともに、「コミュニケーション能力の向上」や「人間関係力の育成」を重視した取組をさらに推進していくため、学校教育における大きな課題である「段差のない教育」、「途切れのない支援」を充実させることに加え、地域や家庭の潜在的な教育力を掘り起こすことにより、協働して子どもたちの育成にあたるような体制を全市的に整えていく。

また、児童生徒が安全で安心な学習環境の下で、快適な学校生活を過ごすため、施設の改善・充実を図る。

現状と課題

平成21年度全国学力・学習状況調査によると、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学において、知識・技能の定着については一部課題が見られるもののある程度満足できる結果であるが、活用する力については多くの課題が見られる。また、平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、体力や運動能力は全国に比べて全般的に低い。

平成21年度の児童生徒アンケートによると、「学校生活は楽しい。いじめは絶対にいけない」と考える子どもは89%と高くなってきており、人権意識の向上が見られる。

しかし、一方では不登校率は全国に比べてやや高く、近年の不登校児童生徒数の推移を見ると、中1では大幅に増加し小6の約3倍となっている。さらに、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が増加する傾向にあり、一人一人の教育的なニーズに応じた支援を行っていく必要がある。

四日市版コミュニティスクールの指定、幼稚園及び小・中学校での学校づくり協力者会議の設置、学校HPの充実などによる積極的な情報公開、学校ボランティアの活動等により、地域に開かれた学校づくりへの体制が整ってきているが、今後、一層の整備を行っていく必要がある。

さらに、真の学力を育て、豊かな人間性を養う特色ある教育を進めるため、実践的な研究を進めていく必要がある。

また、学校施設については、これまで、昭和30年代に建設された校舎について、順次改築を実施してきたが、現在においても昭和30年代建設（一部40年代を含む）で、ベランダ形式などの理由で改築によらなければ、教育施設環境が十分に確保できない校舎が存在する。また、他校舎についても築後30年を経過する校舎が半数を超える状況にあり、時代に即した機能追加と適切な維持管理による教育施設環境の確保が求められている。

リーディングプロジェクト

(段差のない保幼小中の一貫教育の推進)

小学校入学時及び中学校進学時における環境変化により児童・生徒が学校不
適応等を起こす問題(小1プロブレムや中1ギャップ)に取り組む必要がある。
そのため、学習のねらいを明確にした保育園・幼稚園・小中学校の一貫した教
育計画を作成し、系統性・連続性のある教育を目指す。

具体的には、保育園とも連携を図りながら、幼稚園と小学校低学年との交流、
中学校との連携による小学校高学年における教科担任制を進める。また、就学
前から義務教育終了までを見通し、発育・発達に応じたキャリア教育の推進、
道徳・人権教育の充実、体力向上の取組等に努める。

さらに、児童・生徒が新しい学校生活に円滑に適應できる体制を整えるため、
小中学校1年生30人学級等、少人数学級の拡充を図る。

(途切れのない生活指導・支援)

特別な支援を必要とする子どもの能力や可能性を最大限に伸ばすため、一人
一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を行う必要がある。そのため
に、「相談支援ファイル」を作成し、関係機関が連携・協働し、乳幼児期から
中学校卒業後までを見通した相談・支援体制を強化する。また、自立し、社会
参加するための基礎となる力を育成するにあたり、プロジェクトU-8事業(注
1)や四日市早期支援ネットワーク(YESnet)(注2)の充実、中学校における
通級指導教室(注3)を設置する。

(注1)プロジェクトU-8事業

言葉に対する課題や対人関係・社会性の課題、学習上の基礎的な能力に関する課題
のある4歳児から小学校2年生までの子どもに対して、早期に対応し、自己肯定感
を持って小学校へ入学できることや小学校生活を楽しく過ごすことができるように支援
する。教育委員会・福祉部・健康部が連携して「途切れのない支援」を目指す。

(注2)四日市早期支援ネットワーク(YESnet)

統合失調症などの子どもの心の病気の早期発見・早期支援のために、教育委員会・
保健所・医療機関がネットワークを組んだ事業

(注3)通級指導教室

話し言葉に障害があったり、学校生活への適應が難しかったりする通常の学級に在
籍する児童が対象。在籍校から週1回程度通級し、言葉の障害を取り除いたり軽くし
たりするための指導(言語通級教室)や、落ち着いて学習する力やうまく人間関係を
結ぶ力を身につけるための指導(情緒通級教室)を受けて、積極的な生活態度・学習
態度や生き生きとした楽しい学校生活が送れるようにする。

さらに、不登校、いじめ等、問題行動の未然防止や早期発見・解決に向け、
保・幼・小中学校が情報共有し、連携して生徒指導を行う体制づくりを進める
とともに、専門的な知識や経験を有する臨床心理士等をスクールカウンセラー

として配置する学校の拡充を進め、教育相談体制の充実を図る。

なお、高校を中退する生徒が増えている中で、生徒が再度学業に就けるよう相談及び情報提供に努める。

（四日市版コミュニティスクールの推進）

豊富な知識・技術・経験等を持つ保護者・地域・企業等の方々が授業等に参加することを通して教育内容を充実させたり、基本的な生活習慣の確立など生活指導において家庭と連携を強めたりするなど、学校・保護者・地域が一体となって子どもを育てていく取組を進める。このため、現在の「学校づくり協力者会議」を発展させて、保護者や地域の方々などが主体的に学校運営に参画し、その意見を迅速かつ的確に学校経営に反映させるとともに、四日市独自の特色ある教育を推進することができるよう「四日市版コミュニティスクール」の推進を図る。

（新たな教育課題に対応するための実践的研究）

「段差のない教育」「途切れのない支援」「家庭・地域と協働」といった3つの柱で教育を進め、教育課題の解決を図るとともに、新たな教育施策を展開するための実践的な研究を進めていく。

また、新たに取り組む教育施策に対応するための研究開発校を設置していく。

（教育施設環境の確保）

児童生徒数の動向を踏まえながら、昭和30年代校舎など改築を必要とする校舎を計画的に改築するとともに、他の校舎についても、計画的修繕により長寿命化を図り、ニーズにあった新たな機能や適切な維持管理による教育施設環境の確保に努める。